

# 刻む会 たより

No.54

2014. 10. 2

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL0836(21)8003

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 015907132405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

メール

[chouseitankou@me.com](mailto:chouseitankou@me.com)

海に沈んだ炭鉱 夏の学習会を終えて

書記 山内弘恵

1995年8月より夏のフィールドワークとして開催してきたが、真夏に外を歩き回るのは厳しいので、室内での座学として約20年間開催してきた。20年経って、フィールドワークというのは事実にもぐわれないということ、名称を「夏の学習会」に変更した。新生「刻む会」をこの春発足したところなので、名称変更は良いタイミングだった。実際のところは、既に、内岡共同代表の提案で、春には跡地を巡る名前通りのフィールドワークを開催し、夏には室内で学習会として、昨年からのパターンで開催している。

この春のフィールドワーク・夏の学習会は、対象を小・中学生の子ども達と考えて、近隣の小学校へもお知らせしたりしているが、子どもの参加は例年少ない。夏の学習会(フィールドワーク)はこれまで紙芝居を中心に子どもたちにもわかりやすいように

と開催してきた。クイズやチヂミ作り、ミニハングル講座など、様々な趣向を凝らしてきた。が、なかなか子どもの参加者が少ないというのが長年の課題である。何か良い知恵があれば、ぜひとも事務局にご意見を届けて頂きたい。

とはいえ、夏にしろ春にしろ、大人の参加者も含め多い時には20、30名の参加があるのだから、捨てたものではないと私は思う。

昨年は、在日の語り部・裴東録(ペ・トンノク)さんに語っていただいたが、今年はそのお姉さんである裴東先(ペ・トンソン)さんをお招きして対談形式で話をしていただいた。というのも人前で話すのがあまり好きでない東先さん。いつも東録さんと一緒に学校公演に同行されて、子ども達に民族衣装の着付けをしているという。今回も、お話の後には参加者がチマ・チゴリ、パジ・チゴリを試着体験し、朝鮮文化を身近に感じた。東録さんや東先さんが経験されたことは、私達日本人にはとても重たい話だが、民族衣装であるチゴリ

を試着することで、その場の雰囲気にとっても和む。そしてそこには着付けをしてくれた東先さんの笑顔…。

チゴリを着て、会場全体が和やかな雰囲気の中、会を閉じることができた。

東録さんは一〇〇回の学校公演を目指しておられるが、その実現の影の立役者は東先さんだと実感した。これからもお二人の活躍を応援して行きたい。



## 韓国プチョン中学生のフィールドワーク

共同代表 井上 洋子

7月30日、夏まつさかりの暑い昼下がり、韓国プチョン市から、45名ちかくの中学生と引率者が福岡空港から大型バスに揺られて、宇部市長生の海岸に降り立った。暑さよけのため急きょ追悼碑前に用意した二つの簡易テントは人で埋まった。

たまたま、ピーヤに続く海岸道路は工事中のためにバスが近くまでいけない状況で、また、時間が1時間と限られていたのでピーヤの見学ができず、「183名の死」を中学生が実感するには少し無理があったように思う。

長生の事故の簡単な説明をし、中学生の代表に遺族会の弔辞を代表して読んでいただいた。遺族の思いを共有してもらいたかったからだ。水没事故で親を亡くした家族のその後も、生きることへの闘いの連続だったこと、そしてそれは多くの遺族が今もかかえて生活していることにも思いを寄せてもらいたかった。

私は日韓の現在の政治状況のもとで、韓国の中学生たちは日本にどんな感情を持っているのか知リたかったが、強烈な暑さのもとでの郊外学習は、中学生が学習に集中するには高い関心を持っていても大変だったように思う。日本にも侵略したことを心の底から反省し、平和を願う市民がいることを知ってほしいと話した。

学習の最後に中学生に二つのお願いをした。ひとつは、韓国国内でこの問題を大きくとりあげてもらいたいので、大統領や国会議員に長生の現地を訪問してほしいと手紙を出してほしいこと、もうひとつは、「追悼ひろば」を日韓の交流の場にしていくために、ここに日・韓・朝の子供たちの犠牲者や平和への思いを描いた絵を展示するので協力してほしいと頼んだ。子供たちからは元気のいい返答があった。

献花のあとは、用意していた日本の冷たいジュースを我先にとおいしそうに飲んでくれたのが、子どもらしくて本当にかわかったし、準備したアニメの団扇も予想外に喜んでもらった。

この引率者の中に、こういう交流を通して、今はプチョンに住んで活躍している川崎市出身の若い女性がいることを知り、素晴らしい交流の成果だと感激した。憧れ？の日本に着いてすぐに、この重たい課題を勉強することは、スケジュール的には次年度からは考慮したほうがいいかもしれない。当日は別のフィールドワークも予定されていて、山内弘恵さんと私の二人だけの対応で充分なことができずお詫びしたい。



熱い中お話を聞いてくれました

☆韓国・富川フチョンより、フィールドワークに参加したスタッフの一人から手紙が届きました。

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」さま

韓国富川市から中学生日韓交流会の通訊スタッフとして、訪問させていただいた日本人の鈴木裕子と申します。

何年か前に長生炭鉱の歴史を知り、また同時にその歴史を後世に伝え残し、慰霊碑を建てたいと尽力されている方々がいらっしやることを知りました。

日本政府や日本人が当時行った多くの事故や事件は、今も多くが歴史に埋もれ、忘れ去られようとしていると感じています。

私は30代なのですが、高校生のときに韓国人・在日コリアン・日本人の3者交流に参加するまで、生まれ育ってきた地域に在日コリアンが多く住むことも知らず、関東大震災での虐殺事件や地元に秘密戦兵器の資料研究・開発を行っていた研究所があったことも知りませんでした。

関心を持ってみれば、すぐそばにたくさん

の事実や歴史がありました。私がそれを知ることができたのは、歴史に埋もれそうな事実と向き合い、残し、伝えようと尽力してくださっている方々がいてくださるからだと思っています。

今回の交流会で説明を聞きながら当時のことを思うと非常に胸が苦しくなりました。

いつ起こるか分からない浸水や落盤事故、連れてこられた場所での厳しい労働状況、いつ帰れるか分からない故郷、実際に事故が起きたときどんなに苦しかったことだろうか！どれだけ家族の元に帰りたいと思っただろうか？そして、まだ遺骨が海の中にあることを思うと亡くなられた被害者の方々も帰りたいだろうし、遺族の方々も遺骨の返還を願っておられるだろうと思うと慰霊碑の前に立っても、一瞬何を祈ればいいのか迷いました。

こどもたちが慰霊碑にお花を供えるのを見ながら、被害者の方々の魂が慰められると良いなと思うと同時に、改めて慰霊碑の重要さを感じました。

私が長生炭鉱のことを知ることができたのもみなさまのおかげです。ありがとうございます。

日差しが厳しい中、テントやうちわ、飲み物まで用意していただき、交流会に参加した子どもたちも温かい配慮に感謝していました。暑さで集中できない子もいましたが、一生懸命メモを取っている子もいました。実際に訪れて、会の方々からお話を聞き、手を合わせたことは子どもたちにとっても良い経験になったと思います。

私自身も今回の交流会で皆さまにお会いでき、慰霊碑に手を合わせることもできて、たいへん嬉しく思います。

これから自分が参加している高校生3

者交流（日本人、韓国人、在日コリアン）の中でも長生炭鉱のことを伝えて行きたいと思います。

ありがとうございます。



今回、「追悼ひろば」でのフィールドワークに加えて、5 人の子ども達(+通訳1名)をホームステイで受け入れました。

どの子ども、とても素直でまじめな子ども達ばかり。

この子たちは、家庭が経済的に裕福ではなく、塾に通わせてもらえないため、学校が終わってから公共の放課後教室に通っている子ども達なのだそうです。このホームステイに参加するためには、授業をきちんと受けているかなどチェックがあり、選考基準も厳しいとか…。

初めての日本で目を輝かせながら、日本滞在を楽しんでくれていました。

このホームステイ事業が長生炭鉱のフィールドワークを取り入れて2年目。これからも続いていくことを願っています。

山内弘恵

## 長生炭鉱フィールドワーク

―『豊かな人権教育の創造』をめざす先生方と―

共同代表 内岡貞雄

2014年7月30日（水）の午後、（公社）全国人権教育研究協議会主催の研究会に参加の先生方、27人と長生炭鉱跡地を歩きました。DVD「アボジは海の底」を緑橋教会で見てから、ときわ公園石炭記念館前を通過、西光寺に向かいました。一八三人の犠牲者の位牌を前に、創氏改名や事故前後のこと、西岐波小学校三年時のTさんの担任が、「水没事故の数日後、家庭に来てくれ手を握って一緒に泣いてくださった」という逸話を紹介しました。大阪、岡山、広島、島根、香川、愛媛など、県外から研修会に参加されている皆さんは初めて聞く話のようでした。

今回のフィールドワークのねらいとして四つのことを説明しました。

①宇部の主要炭田は海底炭田で、水没事故が多発、多くの犠牲者が出たこと。戦前から五〇〇人以上にもものぼる犠牲者は、苦しい生活のため炭鉱で働いた人びとや、朝鮮半島からやむなく渡日した朝鮮人だったこと。

②長生炭鉱水没事故は、アジア・太平洋戦争中に発生。国や行政、福岡鉱山監督署の杜撰な指導、会社の法律違反にあたる海底炭鉱の開発が事故を引き起

こし、一八三人もの犠牲者を出した『人災』であること。

③長生炭鉱は一九三二年の本格的な採炭時から朝鮮人が多く、彼らの生命や人権は侵害され、常に差別と偏見に晒されていた。

④長生炭鉱の水没事故を通し、戦争を許さない、「平和の大切さ」を学ぶ。（『戦争は最大の人権侵害』だということ）

### 【和歌山市のYさんの感想】

「多くの皆さんもそうかも知れませんが、私は今回のフィールドワークで初めて長生炭鉱の水没事故のことを知りました。海底炭鉱での危険な作業や会社の杜撰な保安管理に憤りと腹立しさでいっぱいになりました。」

かつて、私の連れ合いの父が、『朝鮮半島出身者で、下関から宇部へ船で着いて…』と聞いたことがあります。その人が炭鉱で働いたかどうかわかりませんが、長生炭鉱の水没事故犠牲者がいままって放置されたままだとは思ってもみませんでした。当時の日本の政策があったとはいえ、今日の日本に暮らす人たちがこの現実を知り、『歴史の事実』を直視する必要があると感じました。またいつか子ども達と一緒にこの地を訪れたと思います。」



ピーヤの見える海岸で参加者の皆さんと

## 「7月14日のフィールドワーク」

運営委員 横山 潤

ある日、小畑事務局長をおたずねしたら、「アーサー・ビナードさんってご存知ですか？」：全く存じ上げない方だったのですが、長生炭鉱のフィールドワークに来られ、小畑事務局長が担当されるとのこと。私は四月に宇部に来て、「刻む会」運営委員会の末席に加えて頂いたのですが、まだ「現場」には一度も行っていないかったので、「よい機会」と思い、お供を申し出ました。

小畑事務局長の愛車チンクエチエントの右側の助手席で空冷二気筒リアエンジンの音色を聴きつつ行ってみると、アーサー・ビナードさんは親しいらしい方々と、山口県出身の漂泊の自由律俳人・種田山頭火の作品について語りあっておられました（のちに少々知ったのですが、日本語で詩を創る、納豆が好きな日本在住のアメリカの方だそうですね）。

さて、数名で「追悼ひろば」、ピーヤ近くの海岸（けっこう引き潮でした）、炭鉱跡地等のフィールドワークとなったのですが、アーサーさんは、「運動の進め方、炭鉱の構造、当時の炭鉱の雇用姿勢、国家のありよう、原発との通底性…」等、実に多岐に亘る質問・意見を次々に高度な日本語で繰り出され、小畑事務局長がそのひとつひとつに誠実且つまびらかに応えられるさまは、まぢかでの即興演奏のようでした…。



なかんずく

就中印象深かったのは、「炭鉱労働者を

『美化』し、植民地政策等の構造的な問題を隠蔽する傾向」（『刻む会』が、「そうではない」と訴え続けている傾向と思います）が話題となった時、アーサーさんが、「アメリカにおける奴隷労働の『美化』と共通すると思う」旨述べられたことです。「この方は、自らの課題を携えて、日本に、この宇部に来られたのだな」と思いました…。

アーサーさんは、東京・上野の商店街の会報誌に、次のような出だしの、詩人らしい？文章を書いておられます。

「このごろ、地下鉄の駅構内を歩いていて『非常口』と書かれた標識が目に入ると、つい炭鉱のことを思い浮かべる。コンサートでオーケストラの演奏に聴き入っていて

も、ふと『非常口』の誘導灯を見上げれば、一瞬その向こうに坑道の闇が覗けた感覚を味わう。デパートでも近所の飲食店でも郵便局でも、白地に緑色のあの人間が足早に逃げる形の『非常口』のマークに遭遇すれば、僕は逃げられなかった坑夫たちのことが想像されてくる。日常生活でたびたび見かける『非常』と、日常生活から遠くなつた『炭鉱』とが、ぼくの中で強烈につながつたのは、山口県の宇部をおとずれたときだ。…」（『うえの』八月号）

更に、何故「人災である・不慮ではない事故」が「非常」と名付けられたかが、「権力者や企業」の「責任」という文脈で、原発事故とも関連づけられ考察されています。「…人災の悪循環から抜け出る非常口を、切り開きたいものだ」（前掲書）。



## 長崎原爆朝鮮人犠牲者追悼集會に参加して

—韓国調査委員会第三課課長—

許光茂(ホ・グァンム)氏の講演で学んだこと—

共同代表 内岡貞雄

### 【『出会い』の追悼集會】

2014年8月9日午前7時過ぎ、長崎市平和公園内に建立された「長崎原爆朝鮮人犠牲者追悼碑」に無事到着、台風十一号の影響はありませんでした。北九州を深夜に出発し、仲間との車中談義も楽しいものでした。長崎市は「守る会」(代表高實康稔さん)に電話一本入れれば済むところを、「追悼碑」の場所の更新手続きがなされていない事をわざわざ公表したり、民団が申請している「長崎原爆韓国人犠牲者追悼碑」建立が棚上げされたままであること等から、今年は何か起こるかなと心配しましたが、追悼集會は例年どおりに行なわれました。ただ、集會周辺から写真を撮っている怪しげな輩が数人いたと聞きました。

長崎在住朝鮮人の人権を守る会(以下、「守る会」という)代表の高實康稔(たかざねやすのり)さんの「集會メッセージ」は、二つのことが印象に残りました。

ひとつは、一九七九年八月九日の除幕式の折、故岡正治(おかまさはる)牧師(「守る会」代表)が述べた言葉を、参加者全員で改めて共通認識したことです。「爆死し、異郷の地で悲惨な生涯を閉じられた朝鮮人

のために、その追悼碑を建立することを決意した。無論、このささやかな追悼碑の建設によって、かつて日本帝国主義が、朝鮮を武力で威嚇し植民地化し、その民族を強制連行し、これを虐待酷使し、強制労働に従事させ、遂にはあの悲惨な原爆死に至らしめた戦争責任は決して消滅するものではない。」

そしていまひとつは、韓国の調査研究員・許光茂(ホ・グァンム)さんの活動並びに『原爆と朝鮮人』第七集(2014年4年3月 守る会編集・発行)に大きな働きをされたことです。許光茂さんが勤める韓国政府機関の「対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会」(以下、調査委員会という)発行の被害者の申述集『私の体に刻まれた八月』と『酷い別離』の中から、長崎関係18人の申述掲載が快諾され、さらに許光茂さんが調査委員会と証言に関する翻訳の添削・点検をなさったことが紹介されました。こうした支援は、「守る会」の今後の調査活動に大きな力になるだろうという報告でした。許光茂(ホ・グァンム)さんは『長生炭鉱の水没事故に関する真相調査』(2007年8月31日発行※)の中心的な調査委員でもありました。私たち「刻む会」は、58頁に及ぶ調査報告から新たに学ぶことも多く、今後も

たくさんさんの証言や歴史的事実を掘り起こし、犠牲者の「無念な思い」に報いる活動を行

なっていかなくてはと、決意を新たにしました。

長崎の追悼集會で許光茂さんとの『出会い』、さらに「岡まさはる記念長崎平和資料館」3Fで彼の講演が行なわれるというので、松山町から長崎駅前まで路面電車で会場へ向かいました。

話はそれますが、電車って「高齢者にやさしい乗り物」だと実感しました。

※2012年12月に「刻む会」が日本語に翻訳。その他も含めた「調査報告書」として近々発刊の見込み。



早朝集會を前に  
調査委員の許光茂さん(右)と筆者



## 【許光茂（ホ・グァンム）さんの講演】

テーマ『広島・長崎朝鮮人原爆被害に対する真相調査―強制動員された朝鮮人労務者を中心に―』

許光茂さんのお話の一部を次表にまとめました。なお、許光茂さん一行の広島現地調査の1次訪問が、長生炭鉱の現地訪問（2005年4月22日、23日）の翌日に行なわれていることを知り、改めて強制動員被害調査における真相糾明委員会の大きな働きを思いました。調査委員たちが、高齢で申告された被害者に寄り添い、一つひとつの事実を確認、積み上げを行なった結果、強制動員された朝鮮人労務者の原爆被害の実態に迫る「貴重な報告」が生まれたのだと思います。

**表 広島・長崎における強制動員された朝鮮人労務者の被爆状況**

|                             | 長崎市                                                                                                                                                                           | 広島市                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主な軍需企業と<br>朝鮮人の送出地域         | 三菱長崎造船所・川南工業株式会社<br>深堀造船所・香焼島造船所<br>韓国：全羅南道・忠清南道<br>北朝鮮：黄海道・平安道・咸鏡道等の出身者が多い。                                                                                                  | 三菱広島造船所・東洋工業株式会社<br>韓国：慶尚南道（陝川）・京畿道（水原・平沢）・京城（今のソウル）等の出身者が多い。                                                                                                       |
| 1938～1945年（8年間）の<br>朝鮮人流入人口 | それ以前の7倍にのぼり、急増傾向を示す。                                                                                                                                                          | それ以前の3.4倍にのぼり、急増傾向を示す。                                                                                                                                              |
| 被爆様相について                    | 作業場は市街地にあり、爆心地から比較的至近距離。<br>にもかかわらず、生存した朝鮮人が多かったのは、市街地の山や峡谷などの地形によるところが大。しかし、「入市」被爆を受けた朝鮮人が多い。（例：端島炭坑（軍艦島）から市街地へ復旧作業に投入）被爆朝鮮人約2万人。「ファットマン」プルトニウム 朝鮮人死亡率 50.0%（全被爆者中死亡率 27.2%） | 作業場は郊外周辺部にあり、爆心地から比較的遠距離。<br>しかし、数カ月前から市街地の建物「疎開」作業に投入されていた。当日も朝鮮人は「職域義勇隊」を編成、爆心地1～1.5キロ以内の作業にあたっていた。<br>被爆朝鮮人約5万人。<br>「リトルボーイ」<br>朝鮮人死亡率 60.0%<br>（全被爆者中死亡率 37.9%） |
| 生活実態                        | 三菱長崎造船所の場合：工場の技術習得に3～4ヶ月要した。朝鮮人の実際の作業は、「カシメ打ち」（いわゆる溶接）などの大変な作業であり、日本人は易しく安全な作業が多かった。<br>例えば「航空母艦」は地上7階の高さで作業を行ない、感電や落下等で朝鮮人は毎日のように亡くなった。1か月に2回程度の休息日があった。                     | 三菱広島造船所の場合：関連企業の「広島機械製作所」と合わせ、約2,800人が京城を含む京畿道から強制動員された。平均年齢は22歳。1944年5月、7月、8月、10月の4回にかけて700人が動員。「東寮」、「西寮」、「北寮」に分散、配置された。<br>宿舎では、軍隊式管理で中隊は日本人が、小隊・分隊は朝鮮人が任命された。    |

韓国調査委員会・許光茂他著「広島・長崎朝鮮人原爆被害に対する真相調査―強制動員された朝鮮人労務者を中心に―」（2014.8.9 許光茂氏講演資料から筆者作成）

## 【長生炭鉱の調査活動につなげたい】

宇部市の長生炭鉱水没事故は、広島・長崎の朝鮮人原爆被害実態から見ると、その規模や人数、企業数も比較にならないほど小規模です。逆にいえば、だからこそ現地調査や資料収集、関係者の聞き取りがなかなか進まないといえます。以下、長生炭鉱の調査活動に参考となる事柄をあげてみます。

①口述者は一般に高齢であり、その記憶するところも個人差があつて当然です。したがって、調査する側は、聞き取り内容をそのまま鵜呑みにするのではなく、複数の証言者の重なる部分を取り上げることで大切なと、許光茂さんは言われます。例えば、薛道述（ソル・ドスル）さんの記憶の良さと正確さは特筆すべきで、真相調査内容にも彼の証言に多くの頁が割かれていきます。長生炭鉱の場合、強制連行された朝鮮人は「合宿寮」に閉じ込められたのですが、その場所は、複数の証言により特定できました。一方、薛道述さんが口述した「合宿寮」の食堂で七〇〇名と一緒に食事できたという話は現段階で、必ずしも信憑性がある話ではありません。寮で食事の世話をした方、理髪業の方、遺族・親族等の証言等で確かめることが必要です。また薛道述さんの場合、聞き取りする人の知識やハンゲルの理解度などにより、本人から引き出される答えも違ってくるということがわかりました。

②三菱長崎造船所の小ヶ倉寮の調査についてです。（現在、ここには九州各県からと、朝鮮からの徴用工が合わせて5,000人、そして九州と沖縄、西日本各地から学徒動員された学生が3,000人、両者あわせて8,000人が収容されていたとされます）。しかし、1982年8月の時点では「守る会」が調べた結果は、約700人の朝鮮人の把握だけでした。

しかし、その後、許光茂さんたちの韓国での調査を通し、前述カッコの収容人数が明らかになりました。また、韓国での聞き書きから、学徒動員の若者がこの寮に居住していたこともわかりました。日韓が協力することの大切さが確認されました。

③証言は韓国だけでなく北の共和国からも収集しなくてはなりません。他方、日本人犠牲者の遺族・親族、地域住民からの情報も大切です。小さな情報であっても、それが歴史的事実の幹につながる可能性を持つていくからです。

④宇部の長生炭鉱で働かされたという韓国・朝鮮人犠牲者とその遺族（韓国の遺族会以外）、宇部や中国地方等に住む日本人犠牲者とその遺族・親族は少なからずいると思われます。「守る会」事務局長の柴田利明さんは自らの調査活動に対してもっと『執念』しなくてはならないと言われています。私たちも学びたい姿勢です。

⑤長崎の軍需作業場にせよ、炭鉱・鉱山に

せよ、朝鮮人労務者は常に危険と隣り合わせで、安全措置が取られていなかったのは、三菱長崎造船所でも、川南工業香焼島造船所でも、長生炭鉱の場合でも状況は同じでした。長生炭鉱の場合は、当時の福岡鉱山監督署が出した通達に対する「法律違反」があったことと合わせて、保安状況の不備を明らかにすることが必要です。

『近年韓日・日韓ともに、相当厳しい局面を迎えつつありますが、政治・外交と言つても、所詮人がなすもので、犠牲者にご遺族を中心にものを考えると自然に解決できることと信じます。私たちの委員会は国家の責務を全うすべく作られたものです。そんな委員会をめぐっては、民間の（財団）に肩代わりをさせるとか言つて、この問題を本質から逸らそうとする連中がいて困っております。どうか、ご応援のほどを宜しくお願い申し上げます。』（2014年8月15日 許光茂さんの言葉）



早朝集会で挨拶する許光茂さん。  
写真右は「守る会」代表高實康稔  
さんと事務局長柴田利明さん。



## 「日本の右傾化と靖国問題対応のための国際会議」報告

事務局長 小畑太作

8月21日(木)に、韓国ソウルにて開催された標記の集会について報告します。

前日、8月20日(水)にソウル入り、主管団体(主催と主管に分かれている)の太平洋戦争被害者補償推進協議会と民族問題研究所の手厚い夕食接待で、先ず参加者同士の間睦を深めた。

翌21日(木)は国会図書館小会議室を会場に午前11時から開会式があり、その後、17時30分までシンポジウム形式で発表及び討論が行われた。

開会式では韓国の国会議員をはじめ、諸団体代表の挨拶と呼びかけの他に、この度は参加できなかった台湾からチアス・アリさんによるビデオメッセージの上映がなされた。

引き続き開催されたシンポジウムの第一部は、日本から内田雅敏さん(靖国反対共同行動日本委員会共同代表・弁護士)、中国から趙玉洁(チエオ・ウイジェ)さん(中国吉林省档案馆)、韓国から李錫兌(イ・ソクテ)さん(靖国反対共同行動韓国委員会共同代表・弁護士)が、それぞれ発言した。

昼食を挟んでの第二部は、石原昌家さん(沖縄国際大学名誉教授)が「沖縄からの報告」として、辻子実さん(日本キリスト教協議会靖国神社問題委員会委員)が「東

京からの報告」として、木村庸五さん(安倍首相靖国神社参拝違憲確認等請求訴訟弁護団長・弁護士)が「東京からの報告」として、金英丸(キム・ヨンファン)さん(靖国反対共同行動韓国委員会事務局長・民族問題研究所対外協力チーム長)が「韓国報告」として、そして、わたしが「山口からの報告」として、それぞれが、現在の取り組みと課題、そして今後の展望について語った。その後、シンポジウム形式で補足発言と討論が行われた。



お感じの通り、実に多くの発言者があったのであるが、一人当たりの持ち時間が20分というタイトな枠組みでの発表であった。また、カン・ヒジョンさんをはじめとする第一級の同時通訳者による通訳を介してで

はあったのだが、やはり通常の20分間というわけにはいかない。会議は集団的自衛権行使容認撤回、靖国合祀取り下げなどの5項目を盛り込んだ「要求書」を採択したが、会議のタイトルに掲げられたような「対応のため」の具体的な共同行動の方策などを見出すまでは至ることが出来なかった。しかしそれでも、こうした試みは、安倍政権による軍事化や靖国参拝によって冷え込んでいる、というよりはもはや軍事的緊張の高まっている東アジアの現状においては、極めて意義があったと感じた。個人的にも、この機会を通して、様々な出会いが与えられた。これが今後の、「刻む会」の運動にとっても、そして勿論、平和の構築に繋がっていくことを願ってもいるし、また信じている。

一言付け加えておくと、この度のわたしの報告者としての立場の主は「山口自衛官合祀許可訴訟」(中谷訴訟)の最高裁の不当判決をずっと世に問うている「合祀いやです!少数者の人権を求める会」の世話人としてであったが、主な報告は「刻む会」事務局長として行わせていただいた。何故ならば、件の最高裁判決の問題はかなりよく知られているのに対して長生炭鉱水没事故の問題は未だ広くは知られていないこと、それと「刻む会」自身がこれまでどのような捉えてきているかが、実のところ「刻む会」の抱えている課題とは靖国問題に他ならないからである。すなわち、「殉難者之碑」

とは靖国神社と相似形なのであり、この間  
ずっと問題としていた宇部市教育委員会に  
よるピーヤの説明看板の文章も、その延長  
線上にあるからこそ問題なのである。

さて、その翌日22日(金)は一転して、韓  
国遺族達と共に「江華島(カンファド) 歴  
史・平和ツアー」に出かけた。最も印象深  
かったのは、朝鮮民主主義人民共和国まで  
わずか数百メートルのところの位置する江  
華平和展望台である。そこからは、休戦ラ  
インを超えて、いわゆる北朝鮮の村が肉眼  
で見ることが出来た。それは、わたしにと  
って初めての、見えない国境線という「線」  
を見る機会であり、やはりその「線」も、  
そして国というものも仮想現実でしかない  
ことを感じるものであった。

終わりに、このツアーの出発前に、主管  
団体の太平洋戦争被害者補償推進協議会と  
民族問題研究所の事務所を見学する機会も  
与えられたことについて少し記しておきた  
い。いずれも共同で、他の関連団体と共に  
一軒のビルを借り切っており、所蔵され管  
理されている諸資料と保管室を含め、その  
事務所の規模には、日ごろのわたしの経験  
からは、雲泥の差とも言えるほどの、違い  
を感じざるを得なかった。しかしそれは、  
未だ癒えていない戦争の深い傷跡を、韓国  
市民が抱え続けている現れに違いないので  
ある。故に確かにその働きは貴いものであ  
る。しかし、そうした痛みを、そして負担  
や作業を一日も早くなくすために、そして

次の世代に負わせないためにも平和をつく  
り出すことの必要性を改めて覚えると共に、  
その一方で、逆行して、人々の傷跡に塩を  
塗り込むかのごとく、負担を増やし続けて  
いるこの国の有り様を改めて思わされた。

### 活動日誌

(前回たより以降)

- ▽六月二三日(月) 太平洋戦争被害者補償推進協議  
会による厚労省への申し入れ
- ▽七月 三日(木) 第2回運営委員会
- ▽七月一四日(月) アーサー・ピナードさんフィー  
ルドワーク受け入れ
- ▽七月一五日(火) 慶南新聞取材協力
- ▽七月二六日(土) 夏の学習会
- ▽七月三〇日(水)
- ・富川(プチョン)の子ども達フィールドワーク
- ・全国人権同和研究大会前日のフィールドワーク
- ▽八月 五日(火) 宇部市との協議
- ▽八月 六日(水) 第3回運営委員
- ▽八月一七日(日) ～二一日(木)
- 下関・平和のための戦争展
- ▽八月二一日(木) ～二三日(金)
- 日本の右傾化と靖国問題対応のための国際会議
- ▽八月二七日(水)
- 山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前座り  
込み及び申し入れ行動参加
- ▽八月三〇日(土)
- 関東大震災朝鮮人虐殺を心に刻む集会・下関
- ▽九月一二日(金) 第4回運営委員会
- ▽九月一七日(水)
- 山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前  
座り込み及びピョンヤン宣言一二年記念集会参  
加

ソウル大学亜細亜研究所東北アジア  
センター研究員／博士の大和裕美子  
さんが書かれた博士論文『長生炭鉱  
水没事故の記憶の構図と記憶実践—  
「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻  
む会」を事例に』が、このたび、論  
文集『記憶と表象から読む東アジア  
の20世紀』に掲載され、出版され  
ました。興味のある方はぜひ書店で  
お求めください。

2015年3月21日(土)～22日(日)  
第8回強制動員真相究明全国研究集会  
宇部市文化会館研修ホールにて開催!

全国の研究者がやってくる!  
皆様ご参加ください

## 群馬の森の追悼碑問題―理不尽な撤去要請と今後の展開

運営委員 木岡靖司

群馬の森の「記憶 反省 そして友好」の追悼碑が、県立公園敷地の使用許可（10年更新）の切れる今年、公園から撤去を求められるという事態が生まれました。碑が建立された2004年以来、毎年4月には碑の前で追悼集会在平穩に開かれてきました。ところが2012年以降、「碑文が反日的だ、撤去せよ」との「苦情」が県に届き始め、2013年には「撤去」を求める団体の妨害行動を理由にした、碑前の追悼集会の是非をめぐり県との協議が続きました。

2014年6月9日、群馬県議会産経土木委員会は「群馬の朝鮮人追悼碑に関わる設置許可取り消しを求める」との三件の請願を、自民党議員らの賛成多数で採択しました。そして7月11日、県の要請でもたれた話し合いで県は「①追悼集会での政治的発言 ②追悼碑が紛争の元となり、『憩いの場』としての公園の環境を損なっている」との理由をあげて「自主的撤去」を求めてきました。『記憶 反省 そして友好』の追悼碑を守る会（以下「守る会」）は、「①碑建設地の払い下げ ②短期間の更新を認め協議を続行 ③期間更新するが、碑前の集会を自粛」との対案を提示し検討を求めました。

7月22日県は、「守る会」の提案を拒否し再度「自主的撤去」を求めてきました。守

る会は、知事を含むトップ会談を要求し散会しましたが、この散会から3時間の後、追悼碑の設置期間更新を不許可とすると、報道機関に発表し、並行して、「守る会」宛に文書を届けてきました。

「碑」に刻まれた文章に問題があるのではなく、追悼集参加者の発言に「難癖」をつけて、「碑」の撤去を求めるといふ暴挙です。

以上のような経過から明らかになったことは、「碑」を抹殺しようという人々や県当局の意図に関わらず、「碑」の文章に込められた大勢の人々の善意と平和への願いは少しも損なわれないということです。「碑」に刻まれた文章の一字一句削除できないからです。

追悼集参加者の発言が仮に「不穩当」だとすれば、発言の「不穩当さ」を改めれば済むことであって、「碑」を撤去することではありません。まして、「碑」をめぐり、県職員と「碑」の撤去を求める団体構成員との間で小競り合いがあつたことを挙げ（2012年11月4日）、都市公園としての「平穩」が維持できないから「碑」の撤去を求めるという、信じがたい暴挙です。

今後、群馬県による設置期間更新不許可と碑の撤去要求撤回を求める裁判（行政訴訟）を「追悼碑裁判」とし、支援組織を「追悼裁判を支える会」として、原告団・弁護団を確立する。請願署名第1次分一万筆を11月10日までに集め、11月17日には県

### 「記憶 反省 そして友好」の追悼碑に刻まれている碑文

議会議長に提出する予定。この間、県民から県に寄せられた意見は、4月18日から7月21日までに、「碑」の撤去を求めるもの218件、撤去すべきではないが681件でした。

圧倒的な世論の力で「碑」を守るためにも、「碑」の存在を広く県民に伝え、公園に来て「碑文」を読んでいただくことが、日本と朝鮮・韓国との間の真の友好を切り開く道だと信じます。

#### 追悼碑建立にあたって

20世紀の一時期、わが国は朝鮮を植民地として支配した。また、先の大戦のさなか、政府の労働動員計画により、多くの朝鮮人が全国の鉱山や軍需工場などに動員され、この群馬の地においても、事故や過労などで尊い命を失った人も少なくなかった。

21世紀を迎えたいま、私たちは、かつて我が国が朝鮮人に対し、多大の損害と苦痛を与えた歴史の事実を深く記憶にとどめ、心から反省し、二度と過ちを繰り返さない決意を表明する。過去を忘れることなく、未来を見つめ、新しい相互の理解と友好を深めていきたいと考え、ここに労働動員による朝鮮人犠牲者を心から追悼するためにこの碑を建立する。この碑に込められた私たちの思いを次の世代に引き継ぎ、さらなるアジアの平和と友好の発展を願うものである。

「記憶 反省 そして友好」の追悼碑を 建てる会

2004年4月24日

# 一般会計報告 (2014 年 6 月 28 日～2014 年 9 月 14 日)

(円)

| 収 入       |           |                        |           |        |          |
|-----------|-----------|------------------------|-----------|--------|----------|
| 科目        | 予算        | 期間実績                   | 累計        | 執行率    | 備考       |
| 会費        | 330,000   | ※ <sup>1</sup> 58,000  | 326,000   | 98.8%  |          |
| 寄付金       | 1,200,000 | ※ <sup>2</sup> 154,050 | 708,550   | 59.0%  |          |
| 物販        | 170,000   | 25,500                 | 41,100    | 24.2%  | 証言・資料集   |
| 雑収入       | 10,000    | 0                      | 0         | 0.0%   |          |
| 特別会計繰入金   | 516,000   | 0                      | 0         | 0.0%   |          |
| 合 計       | 2,226,000 | 237,550                | 1,075,650 | 48.3%  |          |
| 支 出       |           |                        |           |        |          |
| 科目        | 予算        | 期間実績                   | 累計        |        | 備考       |
| 事務費       | 30,000    | 16,604                 | 30,358    | 101.2% |          |
| 広報費       | 285,000   | 84,022                 | 148,271   | 52.0%  | 会報誌送料他   |
| 会議費       | 10,000    | 0                      | 0         | 0.0%   |          |
| 追悼碑管理・拡充費 | 700,000   | 18,552                 | 19,835    | 2.8%   | 電気代・植栽   |
| 活動費       | 1,120,000 | 5,300                  | 33,240    | 3.0%   | 集会派遣費    |
| 他団体会費等    | 26,000    | 3,000                  | 26,000    | 100.0% | 市民活動センター |
| 雑支出       | 5,000     | 296                    | 1,996     | 39.9%  |          |
| 予備費       | 50,000    | 0                      | 0         | 0.0%   |          |
| 小 計       | 2,226,000 | 127,774                | 259,700   | 11.7%  |          |
| 繰越金       | 0         | 109,776                | 815,950   |        |          |
| 合 計       | 2,226,000 | 237,550                | 1,075,650 | 48.3%  |          |

※1 正会員登録 7 名 (個人 7 名・団体 0 名) / 累計 63 名 (個人 59 名、団体 4 名)  
賛助会員登録 31 名 (個人 31 名・団体 0 名) / 累計 127 名 (個人 125 名、2 名)

※2 寄付者 (敬称略)

|                 |             |       |                      |       |             |       |
|-----------------|-------------|-------|----------------------|-------|-------------|-------|
| 足立こずえ           | 天野 政子       | 猪股 誠司 | 今橋 宣子                | 岡本 愛子 | 杵渕 智子       | 木原 千成 |
| 木村 郁恵           | 斉藤美代子       | 白川 猶子 | 鈴木 忠実                | 関谷 陽子 | 善徳 映子       | 高市 和久 |
| 竹内 康人           | 田中富美江       | 塚田 勲  | 鳥野小百合                | 長澤連三郎 | 西浦 紘子       | 西嶋 佳弘 |
| 秦 和則            | 秦 忠子        | 福井 栄吉 | 福井 肇                 | 福島 直子 | 藤本エイ子       | 部坂 睦美 |
| 馬嶋 英子           | 宮川 恵子       | 八木加代子 | 八尋 淳一                | 大和裕美子 | 鍵光 洋子       | 湯木 洋一 |
| 吉本 周代           | 全国人権教育研究協議会 |       | 夏の学習会参加者有志           |       | 在日本朝鮮山口県商工会 |       |
| 山口県人権・同和教育研究協議会 |             |       | 日本基督教団西中国教区信徒大会参加者有志 |       |             |       |

## 特別会計報告 (2014 年 4 月 1 日～2014 年 9 月 14 日)

(円)

| 収 入    |           |           |     | 支 出 |      |           |     |
|--------|-----------|-----------|-----|-----|------|-----------|-----|
| 科 目    | 期間実績      | 累 計       | 備 考 | 科 目 | 期間実績 | 累 計       | 備 考 |
| 前年度繰越金 | 4,072,956 | 4,072,956 |     | 繰出金 | 0    | 0         |     |
| 繰入金    | 0         | 0         |     |     |      |           |     |
|        |           |           |     | 繰越金 | 0    | 4,072,956 |     |
| 合 計    | 4,072,956 | 4,072,956 |     | 合 計 | 0    | 4,072,956 |     |

以上感謝をもってご報告いたします。  
引き続きのご支援をお願い申し上げます。



## 運営委員会報告

(2014年6月28日～2014年9月14日)

事務局長 小畑太作

第2回運営委員会 7月3日(木)

第3回運営委員会 8月6日(水)

第4回運営委員会 9月12日(金)

### ○学習会・フィールドワーク受け入れ

追悼碑建立以降、各地の諸団体からの現地での学習会(FW)や取材の依頼が増えています。この間、「慶南新聞取材」「全国人権同和研究会前日FW」「アーサー・ビナードさんFW」「韓国富川(プチョン)の青少年FW」を受け入れ実施しました。今後の予定としては「大阪同和・人権問題企業連絡会FW」「第8回強制動員真相究明全国研究会FW」「第29回人権啓発研究会FW」等の受け入れ実施を予定しています。一人からでも受け入れ実施します。どうぞご利用下さい！また、より内容を充実させるための検討も継続しています。

その他、DVD『アボジは海の底』やパネル等の貸出や、出前講座も行っています。この間には「下関・平和のための戦争展」「山口・平和のための戦争展」へのパネル貸し出し、今後は「グリーンコープやまぐち」へのDVD貸出と出前講座を行います。

(※FWはフィールドワークの略)

### ○「追悼ひろば」の拡充

一部涸れてしまった正面の植栽を増やして植え替えました。また、長生炭鉱をテー

マとした絵画設置と、1997年にピーヤから引き上げた坑木展示について日本ハウスより受けた提案について引き続き検討し、坑木の設置工事を決定しました。工事はこれからです。絵画設置については、予算やデザインの関係で、継続して検討しています。

### ○遺骨等収集

他団体との情報交換も含めて、研究検討を継続していますが、なかなか活路を見出せないでいます。技術的な検討もさることながら、強制労働も含めた労働実態について、また事故の被害者やその遺族への補償がどの程度あったのか、また戦後責任の問題として今日どうなっているのか、更にはどうあるべきなのか、研究検討の上、活路を見出していきたいと思っています。また、市議会議員や地元選出の国会議員を、未解決のこの問題についてどう向き合うのかを問いつつ、協力を得ていくことにしています。

### ○宇部市長との協議

協議の目的をより明確にするために名称を「長生炭鉱水没事故問題解決のための宇部市長との協議会」に改めて第23回を8月5日(火)に開催。市役所職員の、あまりの不適切な態度を叱責した前回でしたが、今回、多少は改まったものの、内容については、相変わらずお粗末なままです。市長側は従前からの「関わらない」との態度を二

つの理由で主張しました。一つは、事故の始末は企業責任だと言うこと。二つ目は、「刻む会」という特定の団体を支援することとは出来ない。前者は前項のことと関わりで、後者はその後、市役所が他団体に市有地を無償貸与していることが判明。今後の交渉に繋がります。

事実を歪曲した。ピーヤの説明看板については、市長側は相変わらずその問題性を認めようとはしません。既に出来上がっている看板実物を開示するように要請しています。

### ○山口朝鮮初中級学校への助成金カット問題

6月18日(水)に当会よりの「質問と要望」を持参し、宇部市教育委員会と協議しました。市教委側はこの件について、人権侵害であるとの自覚は皆無でした。彼らの理解では人権侵害とは、直接的侵害行為のみ、すなわち犯罪のみを言うのであり、権力が義務を負うこと、いわゆる社会権についての理解が全くないと言うことです。当然、現憲法の言う基本的人権の「保障」の意味も知るはずもないのでしよう。

上記の回答については、改めて文書回答を要求し7月29日(火)に回答を得ました。当会は改めて権利侵害を明らかにするための文章を作成。今後、事務方に留まらず、教育委員や市議会議員に、国際条約違反を問うて正して行きます。

### ○右傾化問題

「市民右翼」と一部マスコミの策動によって、各地の追悼碑が攻撃に曝されています。

すが、当会はこの間、福岡県飯塚市の「無窮花堂」と、群馬県の「群馬の森」記憶反省「そして友好」の碑に注目し、後者については要望書を群馬県知事に提出しました。また韓国で開催された「日本の右傾化と靖国問題対応のための国際会議」に事務局長が出席しました。

今後ともこうした動きを注視しつつ、適宜対応を検討実施します。

### ○73周年追悼集会

73周年追悼集会について検討し大枠を以下のように決定しました。日程は2015年1月31日(土)、例年通り午前11時頃より「追悼ひろば」にて追悼式、午後は「ヒストリア宇部」にて14時頃より追悼集会を開催します。この度の追悼集会では、長年、戦没者遺骨の収集に尽力されてきた塩川正隆さん(「戦没者追悼と平和の会」理事長)をお招きし講演して頂く予定です。皆様の参加を心よりお待ちしております。どうぞ今からご予定下さい。

### ○その他

7/26(土)「夏の学習会」開催の検討実施／「第8回強制動員真相究明全国研究集会」会場として宇部市文化会館研修ホールを予約。神戸にて開催される次回事務局会議に内岡貞雄共同代表の派遣決定／「ニッコー仲良くしようぜパレード」下関への参加協力検討／映画「60万回のトライ」上映会への協力検討／『刻む会たより』54号の企画発行準備ならびに発送先を整理検討。

### 『60万回のトライ』宇部上映会

朴思柔(パク・サユ)、朴敦史(パク・トンサ)  
両監督のトークあり!

日程 2014年10月18日(土)

時間 17:30 開場 18:00~上映

場所 宇部市シルバーふれあいセンター

(JR 琴芝駅下車 徒歩2分)

入場料 高校生以上 1000円、小・中学生 500円

主催 「60万回のトライ」上映実行委員・宇部

後援 朝鮮文化研究会 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

山口県人権・同和教育研究協議会 宇部市教職員組合

部落解放同盟山口県連合会 宇部音楽鑑賞協会

連絡 Tel: 0836-21-4819 (朝鮮会館・姜)

Email: tmo9998@sage.ocn.ne.jp

※10/19(日)11時より山口朝鮮初中級学校体育館(下関市)にて上映。(同日学校の公開授業もあります!)



長生炭鉱水没事故 73 周年犠牲者追悼集会

2015年1月31日(土)

ヒストリア宇部イベントホールにて開催決定!